

努力の壺

今日の全校朝会で以下の内容の話をします。クラスでもぜひ取り上げていただければと思います。

今日は、努力の壺という話です。

ちょうど9年前の9月のことです。先生が朝、仕事に出かける時に、家の前で、小学校の5年生くらいの男の子が走っている姿を6時過ぎくらいに毎日見かけるようになりました。いつも後ろにお父さんがいて、励ましながら走っていました。走ると言っても、早歩きのような感じで、走り方も上手とは言えない様子でした。口を開け、「はあはあ」しながら、苦しそうな様子でした。

先生は、二日三日とその子を見ていて、「頑張っているな。偉いな」という気持ちと「いつまで続くのかな。そう長くは続かないだろうな」という思いで彼を見るようになりました。最初は、お父さんが、やりなさいと言っているから仕方なく走らされているという感じでした。表情も、「やりたくないな」と顔に書いているようでした。

先生は、毎朝その子の様子を気にして見るようになりました。たまに先生も遅く家を出る日もあったので、その子に会わないと「あれっあきらめちゃったのかな」と心配な気持ちになりました。しかし、1週間たっても2週間立ってもその子は、走るのをやめませんでした。1ヶ月位たった頃でしょうか。変化が現れました。息づかいが「はあはあ」から「はっはっ」とリズムが出てきて、腕を振ってちゃんと走れるようになってきたのです。特に変わったのは、顔つきです。「やらされている」から「自分からやる」という表情に変わってきました。最初は、厳しい顔でそばに付いていたお父さんも、その子と同じ速さで走るのが精一杯という様子でした。その子の変化を自分のことのように嬉しく思う先生がいました。

2ヶ月立つと、季節は冬に近づいてきました。最初は、半袖で走っていたその子も、長袖になりました。お父さんはもういませんでした。年が変わり、春が近づいてきた頃には、ふっくらしていた体型が、陸上選手のような体格に変わっていました。それから2年ほど立ったとき、びっくりするほどのスピードで走るその子の姿を見かけました。自転車に乗っているお父さんがそばにいました。中学校の駅伝大会の練習をしているのかなと思いました。

今はもう、彼を見かけなくなりました。でも、きっとどこかで努力を続けているに違いないと先生は思っています。

努力には、それをためる壺があるそうです。1週間や2週間努力をしても、その壺はいっぱいになりません。努力を途中でやめると壺の中はすぐにからっぽになります。続けることが大切です。ほんの少しの努力の日があってもかまいません。とにかく続けることです。そして、努力の積み重ねでその壺がいっぱいになった時、努力の結果が壺からあふれ出すのです。あふれ出してからは、自分でも信じられない位の力がどんどん付いていきます。走り続けたその子は、多分、努力の壺をいっぱいし、溢れだし、努力の結果が形となって現れたのでしょう。

みなさんは、どう思いましたが、それぞれが続けている努力の経験などを思い出し「努力の壺」の話に心当たりのあった人もいるでしょう。

いよいよ運動会の練習が本格的に始まりますね。運動でも、勉強でもなんでもかまいません。何か一つの事を目標に努力を続け、努力の壺を溢れさせる5月にして欲しいです。今日の話、各クラスでも話題にしてみてください。